

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	27 / 1983 / 5-10
タイトル	野内川のプラナリア1983年
著者名	青森高校生物部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

野内川のアザナリ 1983年

真山 香代

今年度は天候不順とアザナリに見舞われ、4月24日、8月13日の2回しか調査していません。以下、この2回の調査のレポートを記したあとで、考察を少しだけ加えたいと思います。

野内川上流のアザナリの生態調査 1983年度 第1回

1983年4月24日。天気晴れ。西風は激しく吹き荒れていたが、天気は絶好で気温は今年最高の22.3度まで上がった。雪とけも急ピッチで進んでいるように、川の水の量はかなり多かた。今年は降雪量が少なかったため、このままとも水不足が生じるのではなかと心配だ。ワサワサカタケ、ズシヤシヤなど春の花が咲き出した。

調査結果

[Point II]

W. temp 10°C

pH 5

hour AM 8:10~8:30

種数と体長 (cm) ... 個体数

オミマウス	0.9 ... 1	1.1 ... 4	1.2 ... 2
	1.3 ... 2		

(計 9 個体 平均 1.14 cm)

オハズメウス	0.3 ... 4	0.4 ... 4	0.5 ... 1
	0.6 ... 13	0.7 ... 13	0.8 ... 6
	0.9 ... 6	1.0 ... 6	1.1 ... 3

(計 56 個体 平均 0.71 cm)

オミマウス	0.3 ... 1	0.4 ... 4	0.5 ... 4
	0.6 ... 2	0.7 ... 10	0.8 ... 8
	0.9 ... 10	1.0 ... 7	1.1 ... 3

(計 49 個体 平均 0.77 cm)

想像以上に水の量が多く調査に手間とった。去年より、さらに大きな石が 載り出し、このままではアザナリの居場所がなくなるのではなかと。他に去年と異なっているのは石にカタケのゴケが付着していることだ。アザナリの食物にも変化が生じているのではなかと。思う。

去年まではオミマウスが圧倒的に多かたポイントだが、今回はオハズメウスの方が多い。オミマウスもオハズメウスも冷水性なのだが、難を言えばオハズメウス

の方が低温を好むといえる。ただし、これはミアウスとカマウスとより多
くなっていると思う。

カマウスがこのホトトギスで見つかるのは珍しい。昨年は4月の調査にだけ存在
を認めているが今年はどうなるか、これから見てみる。

体長は、去年の調査とほぼ同じ結果が出ている。やはりカマウスとミアウス
より、ホトトギスはい。ミアウスとカマウスの腹面が赤っぽく、カマウスとカマウス
に近い茶色っぽい色の子が2、3匹いたのが目についた。

[Point 2]

W. temp 10°C

pH 5

hour AM 9:05 ~ 9:25

種類と体長 (cm) ... 個体数

。カマウス	0.3...	2	0.5...	2	0.6...	3
	0.7...	2	0.8...	1	0.9...	3
	1.0...	1	1.1...	2		

(計 6 個体 平均 0.72cm)

。ミアウス	0.3...	1	0.4...	3	0.5...	3
	0.6...	7	0.7...	5	0.8...	6
	0.9...	5	1.0...	7	1.1...	5
	1.2...	2				

(計 44 個体 平均 0.79cm)

去年より少ないように思えるが、体長を測っていると、これのミアウスには一回
り始めたので、必ずしも減っているとはいえない。割合にしてみると、去年に比べカマ
ウスは少なくなっている。ミアウスも含めると、割合はほぼ変わらない。また、ホ
トトギスのミアウスは、ホトトギスに比べて多いようにも思える。

これも水量が多くて夏期の2倍くらいは多いと思った。

毎年の調査で、このホトトギスのミアウスの体長は、やはり大きくなる。平均にしてしま
うと、去年より大きくなるだけでなく、標準偏差も出してみなくてはならない。は
りかたは、環境がよくなるということになり、確かにホトトギスに比べると水の流
れは早い。これはまた、環境のせいかな、やはり色の薄い、白っぽい個体が多
い。一般に小さいものは、色は薄いようだ。

(Point B)

W. temp 10.8°C
pH 5.5
hour AM 10:45 ~ 11:05

種類と体長 (cm) ... 個体数

オトメウズシ	0.6... 1	0.8... 1	0.9... 1
	(計3個体 平均0.77cm)		
オミナウズシ	0.3... 2	0.4... 2	0.5... 7
	0.6... 8	0.7... 12	0.8... 11
	0.9... 7	1.0... 20	1.1... 5
	1.2... 2	1.3... 1	
	(計77個体 平均0.84cm)		

ポイントBには大変個体数が多い。特にオミナウズシが残り時間 2分というのに
で急に見つか、もものである。さらに1.3cmほど 大きな個体はほれと 急に見つかも
もの。ポイントB 一か所からまばら多数見つかたのはここが初めて。これを暖
かい日が続いた影響をうけた。

オトメウズシが 極端に少ない。もともとオトメウズシはオミナウズシに比べ少ない
性質だ。このままオトメウズシは消えてしまうのをうけた。

こゝで腹面の赤いオミナウズシがいた。一匹採集して 実験室で飼育してみることに
した。いまい何を食って赤くなったのをうけた。

(最後に)

第1回目の調査としてはまばらと大変よくできたと思う。さらにしても 毎時毎時よく
この池の底をたぐるものだと思う。環境が変化したせいであるのはわかっているからだ。
石がどんとどんと落ちている。人間が人間のために川をコンクリートで固めて、鉄
線や岩石を支えたりするのは 開口してしまふ。人間が増えれば増えるほど フラリア
がどんとどんと落ちてくよって 長か長くない。フラリアのような小さな生物が 水中
に少ないのは多いと思う。

今回特に興味深いのは オトメウズシの減少だと思う。去年はオトメウズシが急に減
ったのが驚いたが今年もオトメウズシが 減った。一歩の不安を感じずにはいられない。

まばらで浅く木は芽を出したばかりで 光は十分に川に差し込んでいた。フラリアは
どんとどんと落ちてくよって 長か長くない。今この池の底は 隅の隅まで 3分にも
はいりかかっていることである。今回のポイントBで 確かにどうだった。春は傷ついたり、
分解し損ねたよって フラリアが多いものだが 今回ポイントBで 分解し損ねたか
1個体 ポイントBで 傷ついたり 再生中のものか 1個体 見た。今年の春の気候

はいたなくおむかたからえろか。

野内川上流のアサカリアの生態調査 (1983年度 第2回)

1983年8月13日。天候晴れ。刺す太陽照りつづける暑い日だった。異常低温を去り、夏らしい夏に突入して、一週間程たつ。低温の影響がアサカリアにも及んでいるかに配して。やはり低温が続いていた時期に一度も調査に来なかったのかに残留した。一、全談ではあるが、この日日本の国蝶オオムスシロキを見つけた。

調査結果

[Point II]

W. temp 15.5°C

pH 5

hour AM 8:30 ~ 8:50

種類と体長(cm) ... 個体

○ミバシズムシ	0.5... 1	0.6... 1	0.7... 3
	0.8... 2	0.9... 8	1.0... 22
	1.1... 24	1.2... 23	1.3... 22
	1.4... 31	1.5... 15	1.6... 18
	1.7... 8	1.8... 8	1.9... 3
	2.0... 1		

(計 190個体 平均 1.34cm 標準偏差 0.28)

赤土の量は例年と変わらないが、いせ泥の上をはいまわつてはいる個体か、20個体はあつた。今回は、虫も見出しやすかつた。確かに、去年は冷害の影響が雨量が多かつたため、腐りやすかつたもの多かつた。今年は、形が整つて212粒と31といふ感じだ。

○ナシズムシ	0.5... 1	0.6... 2	0.7... 3
	0.8... 1	0.9... 5	1.0... 10
	1.1... 5	1.2... 4	1.3... 1
	1.4... 2		

(計 34個体 平均 0.99cm 標準偏差 0.21)

○ナシズムシ	1.0... 2	1.1... 2	1.2... 2
	1.3... 2	1.4... 1	

(計 9個体 平均 1.33cm 標準偏差 0.71)

○ミマウス 0.4... 3 0.5... 1 0.6... 3
 0.7... 4 0.8... 7 0.9... 7
 1.0... 9 1.1... 8 1.2... 8
 1.3... 1 1.6... 1

(計52個体 平均0.93cm 標準偏差0.24)

○ヒメウス 0.5... 2 0.7... 2 0.8... 2
 0.9... 1

(計7個体 平均0.70cm 標準偏差0.16)

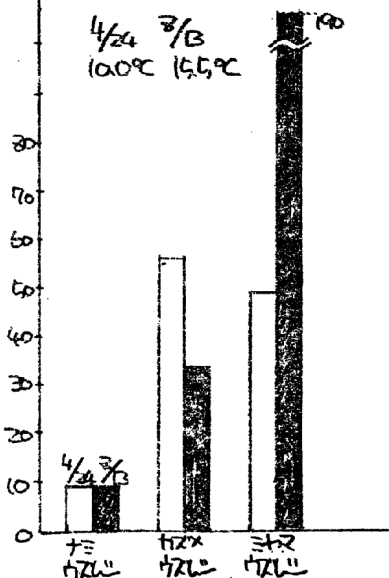
おとくこのポイントも以前のデータと比べて増加していると思う。タビウスは体長の平均も大きくなっていると思う。

[考察] グラフを見てください。

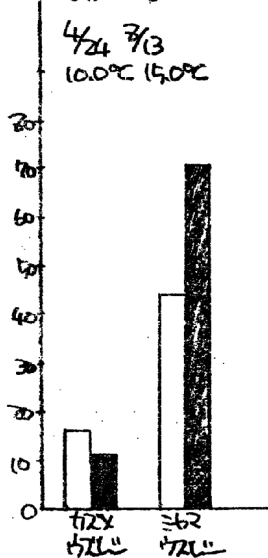
海間を通りまして二山ほど変化のあった年はないかと思ひます。とくにミマウスの数は驚くほど増えています。特にポイント2の190個体のアサリアを見るときは海間報のミマウスを初めて「長持ちかき」と思はれてました。タビウスもポイント2はまたミマウスが見られるようになってきました。タビウスは予感かします。水が汚れてきているせいではないか。

今回はまた2種しか調査していません。今はまだこのことかあります。タビウスは冷水性であることが立証されたことです。ポイント3の山はたな個体を除けばとくにミマウスとミマウスは増えているのにヒメウスは減っているのです。

[Point 1]



[Point 2]



[Point 3]

